

礼拝メッセージフィードバック

＜今日の聖書箇所は…＞

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

セル ガイド

- ① 祈り、賛美によって主がここにいてくださることを信じ、聖霊様をさがめます。
- ② 互いの存在を感謝し、尊敬するところを分かち合しましょう。
- ③ ディボーションの分かち合いをします。
- ④ セルの目的と働きについてみなで共有して、祈り、遣わされて行きましょう。

家族礼拝ガイド

年長のクリスチャンがリードしてください。進め方にはいろいろな意見が出るかもしれませんが、「主に期待する」信仰が最も大切です。いつもの家族でいいのです。

- ① この1週間で神様はすばらしいと感じたのはどんなこと？
- ② この1週間でお互いにどんなことを感謝しますか？（または誉めたいですか？）1つだけ。
- ③ 聖書のみことばから、どんな実践をして、またどんな恵みがありましたか？
- ④ 互いの必要のために祈りましょう。

ディーヴォ ガイド



2023.4.17-23

But **grow** in the grace and knowledge of our Lord and Savior Jesus Christ. To him be glory both now and forever! Amen. II Peter 3:18

L T G ガイド

- ① お互いへの感謝と誉めることを分かち合しましょう。（2～3つ）
- ② 1週間の罪を言い表して悔い改め、互いに祈りましょう。
- ③ 礼拝メッセージの分かち合いをします。
礼拝メッセージの分かち合いが難しい場合はディボーションの分かち合い（なるべく短く）
- ④ 預言の祈り（主の御心を宣言して祈り）をします。

4:1 サウルの子イシュ・ボシェテは、アブネルがヘブロンで死んだことを聞いて、気力を失った。全イスラエルもおじ惑った。

4:2 サウルの子イシュ・ボシェテのもとに、二人の略奪隊の隊長がいた。一人の名はバアナ、もう一人の名はレカブといって、二人ともベニヤミン族のベエロテ人リンモンの子息であった。ベエロテもベニヤミンに属すると見なされていたのである。

4:3 ベエロテ人はギタイムに逃げて、そこで寄留者となった。今日もそうである。

4:4 さて、サウルの子ヨナタンに、足の不自由な息子が一人いた。その子が五歳のときのこと、サウルとヨナタンの悲報がイズレエルからもたらされ、彼の乳母は彼を抱いて逃げた。そのとき、あまりに急いで逃げたので、彼を落としてしまった。そのために足の萎えた者になったのであった。彼の名はメフィボシェテといった。

4:5 さて、ベエロテ人リンモンの子のレカブとバアナが、日盛りのころ、イシュ・ボシェテの家にやって来た。そのとき、イシュ・ボシェテは昼寝をしていた。

4:6 彼らはやって来て、小麦を扱う者として家の中まで入り込み、彼の下腹を突いた。レカブとその兄弟バアナは逃げた。

4:7 すなわち、彼らが家に入ったとき、イシュ・ボシェテが寝室の寝床で寝ていたの、彼らは彼を突き殺して首をはねた。彼らはその首を持って、一晚中アラバへの道を歩いて行った。

4:8 彼らはイシュ・ボシェテの首をヘブロン

「ご覧ください。これは、あなたのいのちを狙っていたあなたの敵、サウルの子イシュ・ボシェテの首です。【主】は今日、わが主、王のために、サウルとその子孫に復讐されたのです。」

4:9 ダビデは、ベエロテ人リンモンの子レカブとその兄弟バアナに答えて言った。

「【主】は生きておられる。主は私のたましいを、あらゆる苦難から贖い出してくださった。」

4:10 かつて私に『ご覧ください。サウルは死にました』と告げて、自分では良い知らせをもたらしたつもりでいた者を、私は捕らえて、ツィクラグで殺した。それが、その良い知らせへの報いであつた。

4:11 まして、この悪者どもが、一人の正しい人を家の中で、しかも寝床の上で殺したとなれば、私は今、彼の血の責任をおまえたちに問い、この地からおまえたちを除き去らずにいられようか。」

4:12 ダビデが命じたので、若い者たちは彼らを殺し、手足を切り離した。そしてヘブロン

イシュ・ボシェテは自分の野心のために、神を無視してダビデの敵となり、彼の命をねらいました。そしてその報いを受けたのです。ダビデは自分に益をもたらしてくれたレカブとバアナを褒めてもよいところですが、それもまた自分中心な考えです。

ダビデは自分の益よりも、神の正義を優先させました。彼らを罰したのです。神の働きをしていると自負しているときには自分にとっての利害が全てであるかのように判断してしまいそうになり

ます。しかし主のために生きる者は、主の正義と主の計画を第一にするものです。それが成功の鍵であることを忘れないようにしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあつて何を実践しますか？



5:1 イスラエルの全部族は、ヘブロンのだビデのもとに来てこう言った。「ご覧ください。私たちはあなたの骨肉です。」

5:2 これまで、サウルが私たちの王であったときでさえ、イスラエルを動かしていたのはあなたでした。【主】はあなたに言われました。『あなたがわたしの民イスラエルを牧し、あなたがイスラエルの君主となる』と。」

5:3 イスラエルの全長老はヘブロンの王のもとに来了。だビデ王はヘブロンで、【主】の御前に彼らと契約を結び、彼らはだビデに油を注いでイスラエルの王とした。

5:4 だビデは三十歳で王となり、四十年間、王であった。

5:5 ヘブロンで七年六か月ユダを治め、エルサレムで三十三年イスラエルとユダの全体を治めた。

5:6 王とその部下は、エルサレムに、その地の住民エブス人のところに行った。すると彼らはだビデに言った。「おまえは、ここに攻めて来ることなどできない。目の見えない者どもや足の萎えた者どもでさえも、おまえを追い出せる。」彼らは「だビデがここに攻めて来ることはできない」と考えていたのである。

5:7 しかし、だビデはシオンの要害を攻め取った。これがだビデの町である。

5:8 その日だビデは、「だれでもエブス人を討とうとする者は、水汲みの地下道を通して、だビデの心が憎む『足の萎えた者どもや目の見えない者ども』を討て」と言った。それで、「目の見えない者や足の萎えた者は王宮に入ってはならない」と言われるようになった。

5:9 だビデはこの要害に住み、これを「だビデの町」と呼んだ。だビデはその周りに城壁を、ミロから一周するまで築いた。

5:10 だビデはますます大いなる者となり、万軍の神、【主】が彼とともにおられた。

5:11 ツロの王ヒラムは、だビデのもとに使者と、杉材、木工、石工を送った。彼らはだビデのために王宮を建てた。

5:12 だビデは、【主】が自分をイスラエルの王として堅く立て、主の民イスラエルのために、自分の王国を高めてくださったことを知った。

イスラエルの全長老がだビデを王として認め、だビデは油注がれて王となりました。主の御心として王に選ばれただビデですが、ここまで来るのには多くの苦しみと障害を乗り越えなければならなかったのです。

主の御心が分っていても、それが実現するまでには時間がかかり、それがまた主の訓練や準備であることが多いのです。この間にだビデはまた民の信頼も勝ち得たと言ってよいでしょう。

「めしいや足なえは宮にはいってはならない。」などというのは酷い差別ですが、それもだビデのことが歪められて伝わったのであって、人々はそれで彼を批判することはありませんでした。(エブス人の言うようにめしいや足なえが戦うはずなどないのに、彼らはそのような人々を持ち出してまでだビデを嘲笑したということへのあてこすりでしょう。)

このようにエルサレムがだビデの町となりました。主の選びと計画は、困難な中でも主に従う者によって、着実に進展してゆくのです。

①神のみこころは？(信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか？(感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか？(あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 19日 水曜

Ⅱ サムエル



5:13 ダビデは、ヘブロンから来た後、エルサレムで、さらに側女たちと妻たちを迎えた。ダビデにはさらに息子たち、娘たちが生まれた。

5:14 エルサレムで彼に生まれた子の名は次のとおり。シャムア、ショバブ、ナタン、ソロモン、

5:15 イブハル、エリシュア、ネフェグ、ヤフィア、

5:16 エリシャマ、エルヤダ、エリフェレテ。

5:17 ペリシテ人は、ダビデが油注がれてイスラエルの王となったことを聞いた。ペリシテ人はみな、ダビデを狙って攻め上って来た。ダビデはそれを聞き、要害に下って行った。

5:18 一方、ペリシテ人はやって来て、レファイムの谷間を侵略した。

5:19 ダビデは【主】に伺った。「ペリシテ人のところに攻め上るべきでしょうか。彼らを私の手に渡してくださるでしょうか。」

【主】はダビデに言われた。「攻め上れ。わたしは必ず、ペリシテ人をあなたの手に渡すから。」

5:20 ダビデはバアル・ペラツィムにやって来た。ダビデはそこで彼らを討って、「【主】は、水が破れ出るように、私の前で私の敵を破られた」と言った。それゆえ、その場所の名はバアル・ペラツィムと呼ばれた。

5:21 彼らはそこに自分たちの偶像を置き去りにした。そこでダビデとその部下はそれらを運び去った。

5:22 ペリシテ人は、またも攻め上り、レファイムの谷間を侵略した。

5:23 ダビデが【主】に伺うと、主は言われた。

「上って行くな。彼らのうしろに回り込み、バルサム樹の茂みの前から彼らに向かえ。」

5:24 バルサム樹の茂みの上で行進の音が聞こえたら、そのとき、あなたは攻め上れ。そのとき【主】はすでに、ペリシテ人の陣営を討つために、あなたより先に出ているからだ。」

5:25 ダビデは【主】が彼に命じられたとおりにし、ゲバからゲゼルに至るまでのペリシテ人を討った。

ダビデはもちろん主のご計画を信じていましたが、今他国の王からも彼に貢ものが届くようになって、王として堅く立てられ「王国を盛んに」されたのを実感したのです。私たちは主の使命のゆえに与えられた立場を実感して、主からそれを受け止めているでしょうか。

ペリシテ人がせめて来ました。主のみわざが始まると必ずサタンは妨げをするものです。それは人を通しての場合が少なくありません。警戒しましょう。

ダビデはそのような時もうたえることなく、「主に伺って」行動を決めました。その結果勝利が与えられたのですが、それも「主は、水が破れ出るように…敵を破られた」と主の証しとしています。私たちは人に何かを伝えるときにも、どれほど主ご自身の栄光を表しているでしょうか。

ダビデのそのようなライフスタイルが、次の勝利、すなわちバルサム樹の林から向かって勝利するという栄光につながったのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



6:1 ダビデは再びイスラエルの精鋭三万をことごとく集めた。
6:2 ダビデはユダのバアラから神の箱を運び上げようとして、自分とともにいたすべての兵と一緒に出かけた。神の箱は、ケルビムの上に座しておられる万軍の【主】の名でその名を呼ばれている。
6:3 彼らは、神の箱を新しい荷車に載せて、それを丘の上にあるアビナダブの家から移した。アビナダブの子、ウザとアフヨがその新しい荷車を御した。
6:4 それを、丘の上にあるアビナダブの家から神の箱とともに移したとき、アフヨは箱の前を歩いていた。
6:5 ダビデとイスラエルの全家は、堅琴、琴、タンバリン、カスタネット、シンバルを鳴らし、【主】の前で、すべての杉の木の枝をもって、喜び踊った。
6:6 彼らがナコンの打ち場まで来たとき、ウザは神の箱に手を伸ばして、それをつかんだ。牛がよろめいたからである。
6:7 すると、【主】の怒りがウザに向かって燃え上がり、神はその過ちのために、彼をその場で打たれた。彼はそこで、神の箱の傍らで死んだ。
6:8 ダビデの心は激した。【主】がウザに対して怒りを発せられたからである。その場所は今日までベレツ・ウザと呼ばれている。
6:9 その日、ダビデは【主】を恐れて言った。「どうして、【主】の箱を私のところにお迎えできるだろうか。」
6:10 ダビデは【主】の箱を自分のところ、ダビデの町に移したくなかった。そこでダビデ

は、ガテ人オベデ・エドムの家に戻った。

6:11 【主】の箱はガテ人オベデ・エドム家に三か月とどまった。【主】はオベデ・エドムと彼の全家を祝福された。

6:12 「【主】が神の箱のことで、オベデ・エドムの家と彼に属するすべてのものを祝福された」という知らせがダビデ王にあった。ダビデは行って、喜びをもって神の箱をオベデ・エドムの家からダビデの町へ運び上げた。

6:13 【主】の箱を担ぐ者たちが六歩進んだとき、ダビデは、肥えた牛をいけにえとして献げた。

6:14 ダビデは、【主】の前で力の限り跳ね回った。ダビデは亜麻布のエポデをまわっていた。

6:15 ダビデとイスラエルの全家は、歓声をあげ、角笛を鳴らして、【主】の箱を運び上げた。

ウザが「ひっくり返しそうになった」神の箱を「押さえた」というだけで、神様から打たれて死んだというのは、いかにも理不尽に思えるかもしれませんが。しかしそのような人間の常識では考えられない出来事の中に、神の真理が隠されている場合が多いのです。

実はウザに限らず、人間は誰でも罪があるので、聖なる神様の前では生きられない存在です。しかし神様は、ご自分が決められた罪の贖いの方法によってのみ、罪が赦されて神の前に出られるということを知ってくださっていたのです。

ウザはそのことを忘れていました。自分が神に触れても当たり前のように、その罪も神の聖なることに無感覚になっていたのです。もしもそれが赦されていたとしたら、神までもが人間の罪

に無感覚になってしまったということになります。人は勝手に罪を犯すようになってしまい、それを止める神の力が無くなってしまうのです。

これはまさにイエス様の十字架の救いと同じです。信じなければ救われませんが、それは人間のもともある罪のためです。唯一つ神様が命をかけて身代わりとなってくださった十字架の救いをないがしろにして、勝手に神のもとに行って神に触れるなどということはできないのです。

主の救いを感謝しましょう。また勝手に人間の判断で主のみこころを無視していないか考えて見ましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



➤ 21日 金曜

Ⅱ サムエル



6:23 サウルの娘ミカルには、死ぬまで子がなかった。

6:16 【主】の箱がダビデの町に入ろうとしていたとき、サウルの娘ミカルは窓から見下ろしていた。彼女はダビデ王が【主】の前で跳ねたり踊ったりしているのを見て、心の中で彼を蔑んだ。

6:17 人々は【主】の箱を運び込んで、ダビデがそのために張った天幕の真ん中の定められた場所にそれを置いた。ダビデは【主】の前に、全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げた。

6:18 ダビデは全焼のささげ物と交わりのいけにえを献げ終えて、万軍の【主】の御名によって民を祝福した。

6:19 そしてすべての民、イスラエルのすべての群衆に、男にも女にも、それぞれ、輪形パン一つ、なつめ椰子の菓子一つ、干しぶどうの菓子一つを分け与えた。民はみな、それぞれ自分の家に帰った。

6:20 ダビデが自分の家族を祝福しようと戻ると、サウルの娘ミカルがダビデを迎えに出て来て言った。「イスラエルの王は、今日、本当に威厳がございましたね。ごろつきが恥ずかしげもなく裸になるように、今日、あなたは自分の家来の女奴隷の目の前で裸になられて。」

6:21 ダビデはミカルに言った。「あなたの父よりも、その全家よりも、むしろ私を選んで、【主】の民イスラエルの君主に任じられた【主】の前だ。私はその【主】の前で喜び踊るのだ。」

6:22 私はこれより、もっと卑しめられ、自分の目に卑しくなるだろう。しかし、あなたの言う、その女奴隷たちに敬われるのだ。」

ダビデは主がおられることを心から純粋に喜び、そしてそれを表しました。彼にとっては主がおられることの喜びは、自分の王としての立場や威厳よりも大きかったのです。一方ミカルは王の娘であることがプライドであり、そのような格式や見栄えの方が大切であったようです。

これは私たちも自省すべきところです。どれだけ主の存在を喜んでいるでしょうか。礼拝や日常生活ではどうでしょうか。それよりも人間的な見栄え、格式や伝統に捉われてはいないでしょうか。または自分自身のプライドにこだわり、主御自身の喜びやみわざやまた優先順位を見逃してはいないでしょうか。

当時、王に子どもを産まなかった王妃が祝福されていないと見なされたように、私たちもまた主を喜ばないなら祝福を逃すことさえあるかもしれません。ダビデのように、主を喜ぶことには純粋で大胆でありましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？



7:1 王が自分の家に住んでいたときのことである。【主】は、周囲のすべての敵から彼を守り、安息を与えておられた。

7:2 王は預言者ナタンに言った。「見なさい。この私が杉材の家に住んでいるのに、神の箱は天幕の中に宿っている。」

7:3 ナタンは王に言った。「さあ、あなたの心にあることをみな行いなさい。【主】があなたとともにおられるのですから。」

7:4 その夜のことである。次のような

【主】のことばがナタンにあった。

7:5 『行って、わたしのしもべダビデに言え。『【主】はこう言われる。あなたがわたしのために、わたしの住む家を建てようというのか。』

7:6 わたしは、エジプトからイスラエルの子らを連れ上った日から今日まで、家に住んだことはなく、天幕、幕屋にいて、歩んできたのだ。

7:7 わたしがイスラエルの子らのすべてと歩んだところどこでも、わたしが、わたしの民イスラエルを牧せよと命じたイスラエル部族の一つにでも、「なぜ、あなたがたはわたしのために杉材の家を建てなかったのか?、一度でも言ったことがあっただろうか。』

7:8 今、わたしのしもべダビデにこう言え。

『万軍の【主】はこう言われる。わたしはあなたを、羊の群れを追う牧場から取り、わが民イスラエルの君主とした。

7:9 そして、あなたがどこに行っても、あなたとともにいて、あなたの前であなたのすべての敵を絶ち滅ばした。わたしは地の大いなる者たちの名に等しい、大いなる名をあなた

に与えてきた。

7:10 わが民イスラエルのために、わたしは一つの場所を定め、民を住まわせてきた。それは、民がそこに住み、もはや恐れおののくことのないように、不正な者たちも、初めのころのように、重ねて民を苦しめることのないようにするためであった。

7:11 それは、わたしが、わが民イスラエルの上にさばきつかさを任命して以来のことである。こうして、わたしはあなたにすべての敵からの安息を与えたのである。

【主】はあなたに告げる。【主】があなたのために一つの家を造る、と。

7:12 あなたの日数が満ち、あなたが先祖とともに眠りにつくとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子をあなたの後に起こし、彼の王国を確立させる。

7:13 彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。

7:14 わたしは彼の父となり、彼はわたしの子となる。彼が不義を行ったときは、わたしは人の杖、人の子のむちをもって彼を懲らしめる。

7:15 しかしわたしの恵みは、わたしが、あなたの前から取り除いたサウルからそれを取り去ったように、彼から取り去られることはない。

7:16 あなたの家とあなたの王国は、あなたの前にとこしえまでも確かなものとなり、あなたの王座はとこしえまでも堅く立つ。』

7:17 ナタンはこれらすべてのことばを、この幻のすべてを、そのままダビデに告げた。

ダビデが主の宮を建てようとする動機は善いものでした。主のことが自分の生活よりも後回しにしてはいけないという、主への誠実な思いです。私たちはどうでしょうか。

しかし主は、働きにふさわしい人に任せられます。歴代誌を見ますとダビデが戦士であり、多くの血を流したことから、その子ソロモンにその働きをさせたことが分かります。主に聞いて、主の最善を知りましょう。

また主はご自身よりも、むしろ愛するイスラエルの民を優先なさいました。それほどに主の愛は深いのです。主の最善は主の愛によるのだということを覚えて、主に信頼して従いましょう。

①神のみこころは? (信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど)

②どんな思いになりましたか? (感情や願いなど)

③生き方にどう適用しますか? (あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか)

④この世にあって何を実践しますか?



7:18 ダビデ王は【主】の前に出て、座して言った。「【神】、主よ、私は何者でしょうか。私の家はいったい何なのでしょう。あなたが私をここまで導いてくださったとは。

7:19 【神】、主よ。このことがなお、あなたの御目には小さなことでしたのに、あなたはこのしもべの家にも、はるか先のことまで告げてくださいました。【神】、主よ、これが人に対するみおしえなのでしょう。

7:20 ダビデはこの上、何を加えて、あなたに申し上げることができるでしょうか。【神】である主よ、あなたはこのしもべをよくご存じます。

7:21 あなたは、ご自分のみことばのゆえに、そしてみこころのままに、この大いなることのすべてを行い、あなたのしもべに知らせてくださいました。

7:22 それゆえ、申し上げます。【神】、主よ、あなたは偉大な方です。まことに、私たちが耳にするすべてにおいて、あなたのような方はほかになく、あなたのほかに神はいません。

7:23 また、地上のどの国民があなたの民イスラエルのでしょうか。御使いたちが行って、その民を御民として贖い、御名を置き、偉大な恐るべきことをあなたの国のために、あなたの民の前で彼らのために行われました。あなたは、彼らをご自分のためにエジプトから、異邦の民とその神々から贖い出されたのです。

7:24 そして、あなたの民イスラエルを、ご自分のために、とこしえまでもあなたの民として立てられました。【主】よ、あなたは彼ら

の神となれました。

7:25 今、神である【主】よ。あなたが、このしもべとその家についてお語りになったことばを、とこしえまでも保ち、お語りになったとおりに行ってください。

7:26 こうして、あなたの御名がとこしえまでも大いなるものとなり、『万軍の【主】はイスラエルを治める神』と言われるように。あなたのしもべダビデの家が御前に堅く立ちますように。

7:27 イスラエルの神、万軍の【主】よ。あなたはこのしもべの耳を開き、『わたしがあなたのために一つの家を建てる』と言われました。それゆえ、このしもべは、この祈りをあなたに祈る勇気を得たのです。

7:28 今、【神】、主よ、あなたこそ神です。あなたのおことばは、まことです。あなたはこのしもべに、この良いことを約束してくださいました。

7:29 今、どうか、あなたのしもべの家を祝福して、御前にとこしえに続くようにしてください。【神】である主よ、あなたがお語りになったからです。あなたの祝福によって、あなたのしもべの家がとこしえに祝福されますように。」

主のために自分がしたいと思ったことが受け入れられなかったダビデですが、彼はそれを不満には思いませんでした。むしろ主の祝福の約束とこれまでの守りに対して、心から感謝したのです。そしてそれは的を射たものでした。主はダビデとイスラエルを愛して、その御心を行われるからです。

このように自分の思い通りにいかないときこそ主に感謝しましょう。これまでの主の恵みは消えることはありません。また主の愛は変わることが

ありません。そこに人生の基盤を置くなら、私たちの考えは揺るぎません。本当の平安が与えられ、最善の道をからそれることはありません。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

